



銀の馬車道・鉱石の道 (兵庫県)

素材研究
(国内)



総延長は350km、深さは地下880mに達した生野銀山の坑道



明延鉱山で探鉱された鉱石の選鉱場となった神子畑鉱山



生野鉱山に招かれた外国人技師の官舎が移築された旧神子畑鉱山事務舎



神河町に現存する昔のままの「銀の馬車道」



国宝で世界文化遺産の姫路城は抜群の集客力を誇る地域観光の目玉です

1200年の歴史を持つ日本有数の大鉱山だった生野銀山。近代化の礎となった往時の様子を今に伝える史跡です

近代化の記憶をたどる2つの「道」 兵庫県の新たな観光ルートとして注目

兵庫県中央部の播但地域を南北に貫く「銀の馬車道」と明延鉱山や中瀬鉱山へと続く「鉱石の道」は今年4月、文化庁により日本遺産に認定されました。国宝で世界遺産の姫路城を擁する姫路市から養父市に至る「道」の先には、1300年の歴史を持つ名湯・城崎温泉もあり、兵庫県の新たな観光ルートとして注目が高まっています。

沿線の市町が協働で事業推進へ

「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」資源大日本国の記憶をたどる73kmの轍」と銘打たれた日本遺産は、かつて鉱物資源大国だった日本の歴史を辿るストーリーです。

正式名称を「生野鉱山寮馬車道」という「銀の馬車道」は、生野銀山を国営化した明治政府が銀の増産を目指して必要な資材や物資を大量に速く運ぶため、49kmを切り開いた、日本初の高速産業道路です。姫路港の飾磨港区から辿る「道」には、鉱山と共生した宿場町や町家も点在し、生野では現在も稼働する金属工場が「鉱山まち」の活気を感じさせます。生野から北西24kmに延びる「鉱石の道」には、鉱山の地中深くに掘られた坑道が残され、金銀銅を求めた鉱夫たちの執念と息遣いを伝えてくれます。

日本遺産の認定を受けて、沿線に位置す

る姫路市・福崎町・市川町・神河町・朝来市・養父市の6市町と兵庫県などは今年6月、「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会を設立し、協働で事業の推進に取り組んでいます。

目玉観光地のサブストーリーに

兵庫県中播磨県民センター・県民交流室産業観光課の山名佐知子班長（銀の馬車道担当）によると、同推進協議会では、日本遺産としてのエリアブランド発信事業として、各市町の構成遺産と観光資源を広域観光ルートとして繋いで内外にアピールするホームページや映像などを制作する一方、旅行会社向けに日本遺産の意義やストーリーの魅力、絶景スポットやモデルルート、観光施設のユニバーサル対応などの情報を盛り込んだ素材集を作成する予定です。

「日本遺産に認定されたからといって、いきなりメインの観光素材となれるわけではないと思うので、姫路城や城崎温泉への旅行商品のサブストーリーとしてツアーに組み込んでいただき、実際に足を運んで知っていただけのような展開を期待しています。関連するパンフレットの提供なども可能な範囲で行っていききたい」（山名班長）

さらに、同推進協議会では、遺構や名所などを歩くりレー形式でのウォーキングやサイクリングのイベントなども、魅力体感事業として実施する予定で、スポーツ型の体験プログラムを通じて日本遺産の魅力を訴求することも目指しています。